

令和6年度 小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	株式会社 それいゆ	代表者	静 順也	法人・ 事業所 の特徴	本事業所は、函南町における唯一の小規模多機能事業所であり、介護サービスに求められる多様なニーズに対して地域密着型の特性を活かし、きめ細かいサービス提供に取り組んでいます。 法人グループが経営するグループホームやデイサービス事業所と連携しながら、認知症カフェの設置運営など、地域密着型としての事業展開を図っています。
事業所名	小規模多機能ホーム ル・ソレイユ函南	管理者	宮内 孝文		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	1人	5人	0人	3人	1人	1人	1人	人	13人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	利用者、ご家族に対し事業所の活動に関するアンケートを実施する。アンケートの中からニーズや改善点を把握し、サービス内容の向上を図る。	令和6年10月～11月にかけて利用者、ご家族にアンケートを実施した。利用者、ご家族からのご意見やご要望を把握することができた。	家にいると寝ている時間が多いため、身体を動かす時間を増やして欲しい。	日々の活動の中で、身体機能の維持を目的とした体操を取り入れる。
B. 事業所のしつらえ・環境	感染予防対策を徹底し、事業所のスペースを活用した面会方法や地域住民との交流の場の提供を検討する。	面会については相談室を開放し、ご希望時に面会をしていただいている。またご希望に応じて活動風景や居室内も見学頂いている。	家族が生活全般（食事、お風呂、集団での生活）を見る機会を設ける。	ご家族が日頃のサービス提供の状況を見ることが出来る時間を作る。
C. 事業所と地域のかかわり	これまで参加した地域行事やボランティア等協力体制関係にあった団体や人材の台帳を整理し、認知症カフェの再開等に向けて、法人グループと連携しながら具体的な検討に入る。	地区行事等への参加を考えられているが、職員体制の問題もあり、十分に参加できない状況である。	運営推進会議において近隣地域での活動の情報を得ることができている。	近隣地域の活動への参加を実行する。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	コロナ禍で中断していた本人と地域の関りについて再確認を行い、これまで関係していた団体や人材についての情報を整理し、コロナ後の支援の再開に向けた準備を整える。	ごく少数の利用者であるが、函南町主催のふれあい広場へ参加をした。活気ある場へ参加し、作品の見学や買い物など楽しむことができた。	利用者個々の生活歴や趣味、趣向、地域での活動状況等を把握し、利用者の意向を伺いながら活動の場への参加を促していく。	生活の背景から、どのような地域との関りが必要であるかを把握する。
E. 運営推進会議を活かした取組み	函南町唯一の小規模多機能の事業所としての存在を地域に認識してもらうために、その改善方法を運営推進会議において提案、検討し、行政にも協力を求める。	小規模多機能型居宅介護としての事業所の特色を生かし、総合的な介護サービスを提供できる事業所として情報発信に力を入れている。	運営推進会議において事業所の特色を活かした取り組み状況や情報を発信する。	事業所の認知度を高めるために運営推進会議を通じて取り組みについて発信していく。

F. 事業所の 防災・災害対策	2024 年度までの BCP 策定に向け、事業所が取り組むべき防災・災害対策について全員で取り組む。	BCP を作成し、災害時に事業所としての取り組み、またソレイユ全体の中での役割も盛り込んで作成した。	定期的な研修を行い、実際の動きに沿った動きが取れるように BCP を改定する。	研修の実施と実際の動きに沿った BCP を作成する。
--------------------	--	--	---	----------------------------